



# 試薬管理を徹底しよう！

ルールを守って、事故を未然防止し、安全に実験を！



学内で日常的に使用されている化学薬品（試薬）は、様々な有害性や危険性を有しています。事故の未然防止，利用者安全確保の観点から，入手，使用，保管，廃棄に至るまで適正に管理することが求められます。特に法令で規制されているものは，法定事項に基づいた厳格な管理が必要です。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に備え，関係省庁より文部科学省を通じて，毒物・劇物や爆発物の原料になる物質の適正な保管管理を徹底するよう通知されています。

以下は化学薬品を使用するにあたり，遵守しなければならない法定事項，学内のルール及び事故の未然防止に必要な事項をまとめたものになります。使用している研究室や実験室に問題点がないか，改めて確認してください。



## 1. 化学薬品の入手・保管管理

購入は必要最小限で



保管場所は必ず施錠

落下防止策を講じる



毒劇庫には法定表示



危険物は貯蔵所保管

管理簿で在庫の把握



定期的に整理整頓を

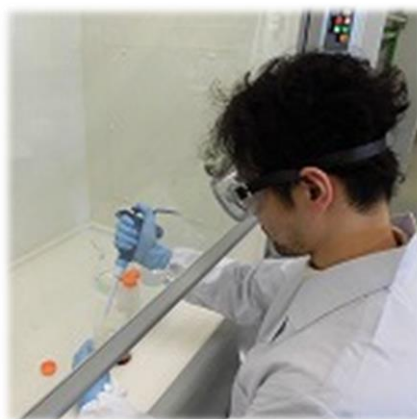
## 2. 化学薬品を使用するにあたって



安全教育講習を受講

使用薬品の有害性や危険性は事前に確認

適切な保護具を着用  
 例：白衣，手袋，保護メガネ



局所排気を適宜使用

緊急時の対応を把握

1人では実験しない



### 3. 実験終了後の対応

実験で排出される廃棄物は、**実験系廃棄物マニュアル**に従って分別回収し、処分



当センターでは、化学薬品の安全な取扱いや適正な管理の必要性を安全教育講習会、実験室安全パトロール、明治大学あんぜんだより、教員宛て文書通知、Eメール配信等で繰り返し訴えてきました。引き続き、化学薬品適正管理の推進に取り組んでまいりますので、御理解、御協力のほど、よろしくお願いいたします。



学内アクセスのみ 実験系廃棄物マニュアル



実験系廃棄物マニュアル PDFファイル URL

明治大学内のネットワーク (133.26.\*.\*) 内からのみ閲覧できます。

## 実験廃液を減容しよう！

実験廃液処理業者へ支払う処理費用は、環境保全にかかる費用として、現在全額を法人が負担しています。原資は学費等で賄われています。

**年間総額約530万円（20リットルポリタンク1本あたり平均2,581円）です。**



実験用ながしや生活ながしに廃液を捨てることは論外ですが、**廃液処理には高額のコストがかかっています。**大量に廃液を発生させる実験手法については、より少なくできないかを検討してみてください。



## あんぜんだより第3号の発行によせて

生田安全管理センター長 荒川 利治

大学の理系キャンパスにおいては、学内外の環境汚染および教職員、学生等の安全に十分な配慮が必要です。理工学部と農学部を有する生田キャンパスと黒川農場では、安全で適切な管理を必要とする薬品、機器等を数多く保有しており、事故の未然防止は必須不可欠です。生田安全管理センターは、教職員、学生等の安全を確保し、適切な教育研究環境を維持することを目的として、2013年に設置されました。爾来、センターでは運営委員会において安全管理に関わる様々な事項について審議して、重要事項の徹底した学内周知を続けています。ここに、明治大学あんぜんだより第3号をお届けできることを大変うれしく思います。センターの運営に関わる皆さまのご尽力によるものと心より感謝いたします。

法人の下に設置されている生田安全管理センターでは、「第2期中期計画」において、防災・危機管理として「理系の教育研究環境を維持するための安全管理体制の整備」の観点から、①高圧ガスの管理と排気装置の点検およびマニュアル類の整備・見直し、②安全教育講習会の実施、③薬品類の使用法と管理方法の厳格化、を重点項目として取り組み、当初目標を達成してきています。

一方で、センターでは日常的に生田キャンパスの研究室、実験室においてパトロールを実施することで、化学薬品・高圧ガス・放射性物質の管理、実験廃棄物・実験排水の処理などが法令に沿って適切に管理されていることを確認し、十分な安全性を維持しています。また、他キャンパスからの安全管理に関する問い合わせや要望にも協力してきています。明治大学の全キャンパスが更なる安全管理体制を構築するためには、生田安全管理センターは名実ともに明治大学安全管理センターとしての機能を持った組織に発展すべきものと考えられます。

生田安全管理センターの活動にご理解を賜りましたことにお礼を申し上げますとともに、この4年間、当職へ戴いたご協力で感謝いたします。安全安心なキャンパスを維持するために、センター内外の皆さまにはなお一層のご助力をお願いいたします。



## 生田安全管理センター メンバー紹介



2020年3月 現在

### 生田安全管理センター

- センター長 荒川 利治 (常勤理事)
- 副センター長 久保田 寿夫 (理工学部長)
- 同 針谷 敏夫 (農学部長)
- センター員 小池 裕也 (理工学部)
- 同 安保 充 (農学部)
- 同 蛭木 朋子 (農場)
- 同 平岡 和佳子 (研究・知財戦略機構)

- 教務事務部理工学部事務長 小暮 保
- 教務事務部農学部事務長 柳 光弘
- 総務部生田キャンパス課長 山崎 由美子

### 総務部生田キャンパス課

【生田安全管理センター担当者】

専任職員

- 野瀬 義博
- 直井 哲也
- 筒井 洋平
- 特別嘱託職員 加藤 彩乃

### センター運営委員会

- 荒川 利治
- 久保田 寿夫
- 針谷 敏夫
- 小池 裕也
- 安保 充
- 蛭木 朋子
- 平岡 和佳子
- 渡邊 友亮 (理工学部)
- 村上 周一郎 (農学部)
- 紀藤 圭治 (科学技術研究所)
- 小暮 保
- 柳 光弘
- 國原 一雅 (研究推進部生田研究知財事務長)
- 山崎 由美子



第9回 センター運営委員会  
2019年7月30日  
生田キャンパス 中央校舎内

### 放射線関係専門部会

- 部会長 平岡 和佳子
- 安井 幸夫 (理工学部)
- 小池 裕也
- 中村 卓 (農学部)
- 村上 周一郎

### 高圧ガス関係専門部会

- 部会長 安保 充
- 三浦 登 (理工学部)
- 小池 裕也
- 浅沼 成人 (農学部)

# 注射針の事故を防ごう！

動物実験で使用する注射針について、針刺し事故が毎年発生しています。  
無菌マウス・無菌ラットを扱った針の場合、動物から人へと感染症にかかる危険性はほぼありません。  
幼ブタ・幼サル等については、E型肝炎などの人獣共通感染症にかかる危険性が残ります。次のことに注意しましょう。

## 注射針 取り扱いの基本事項

- ・むき出しの針をもって歩かない。
- ・針を人に向けない。手渡ししない。
- ・できるだけ手袋を着用する。
- ・注射の準備、施行、片付けをしている最中の人には声をかけない。
- ・「鋭利な刃物を取り扱っている」という意識を持つ。

## 注射中および使用後の取り扱い

- ・針のリキャップはしない。
- ・使用済みの針は、使用者自身の手により、その場で感染性廃棄物容器に直ちに廃棄する。
- ・感染性廃棄物容器の蓋の密閉を徹底する。
- ・8割くらいで容器を交換する。（満杯になるまで容器を使用しない。）



事故が起きたら、指導教員に報告の上、生田診療所（電話044-934-7611）または医療機関へ連絡。

応急処置：血液を絞り出し、石鹼と流水で十分に洗浄した後、消毒液を使う。直ちに医療機関へ。

この記事は、独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター 感染予防対策委員会編「院内感染予防対策マニュアル 第3版」（2016年3月31日発行）を参考にしました。

## 2019年度安全教育講習会実績

- ✓ 新人向け安全教育講習会：2,135名
  - ✓ サークル向け安全教育講習会：294名
- 化学薬品・高圧ガス・エックス線発生装置                      化学薬品

### 編集後記

廃棄物処理時に危険がないよう、適切な廃棄・廃液排出を心掛けて下さい。（安保 充）  
 実験中及び終了後、廃液と洗液を指定の廃液タンクへ分別回収することは大切です。  
 準備から片付けまで廃棄物の分別と減容を考慮した実験計画を立案しましょう。（小池 裕也）

明治大学あんぜんだより（第1号～第3号）をご覧になってのご意見感想をお寄せください。  
 【宛先】↓生田安全管理センター 明治大学あんぜんだより 編集担当 宛て

### 学校法人明治大学 生田安全管理センター

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 明治大学生田キャンパス 東管理棟 2階  
 TEL : 044-934-7974・7179 開室時間:月～金 9:00～17:00 / 土 8:30～12:00  
 URL : <https://www.meiji.ac.jp/safety/index.html>  
 E-mail : [i-anzen@mics.meiji.ac.jp](mailto:i-anzen@mics.meiji.ac.jp)

学校法人明治大学 生田



生田安全管理センター